

2007年5月21日

株式会社マルハグループ本社

2007年3月期連結決算概要



1. 2007年3月期連結経営成績概要

	実績	前年	前年比	当初計画	当初計画比
売上高	7,375億円	7,193億円	102.5%	7,500億円	98.3%
営業利益	121億円	107億円	113.8%	195億円	62.1%
経常利益	111億円	121億円	91.8%	165億円	67.3%
当期利益	16億円	46億円	34.8%	55億円	29.1%

2. ユニット別事業状況

セグメント/ユニット	2006年度事業環境
水産セグメント	
漁業・養殖ユニット(国内) (海外)	養殖魚の市況好調とクロマグロ出荷増 海外エビ事業環境悪化
北米ユニット	漁業環境悪化による操業効率の著しい低下
水産商事ユニット	魚価高・円安によるコストアップをカバーしきれず
荷受ユニット	魚価上昇傾向
戦略販売ユニット	原料マグロ高騰
食品セグメント	
加工食品ユニット	原料高と冷凍食品事業収支悪化
畜産ユニット	概ね予想通り
化成品ユニット	概ね予想通り
アジア・オセアニアユニット	缶詰原料の鮪鰹高騰
保管物流セグメント	
保管物流ユニット	一部貨物の取り扱い減少

3. 営業利益未達要因(当初計画比)

水産セグメント

- 国内養殖事業増益
- アフリカ合弁エビ事業、事業環境悪化
- 北米事業漁業環境悪化
- 水産商事等輸入コストアップ
- 荷受事業在庫処分 他

△35億円

+10 億円
 △ 8 億円
 △12 億円
 △10 億円
 △15 億円

食品セグメント

- 冷凍食品等原料高の販売価格への転嫁の遅れ
- 鮪鰹缶詰原料価格高騰
- その他

△ 20億円

△10億円
 △ 5億円
 △ 5億円

保管・物流セグメント 新規事業遅れ等

△ 5億円
 △14億円

総 計 74 億円

4. 2006年度のトピックスー1

- 4月
 - ⇒ アイシア買収、連結子会社化(ペットフード事業)
 - ⇒ 北九州魚市場と佐賀魚を合併
- 5月
 - ⇒ 大阪魚市場と近畿地区荷受事業の統合に関する基本合意締結
- 7月
 - ⇒ 自己株(優先株)取得・消却(119億円、11,900千株)
 - ⇒ 第一回無担保転換社債型新株予約権付社債発行(120億円)
 - ⇒ 大連遠洋マルハ食品有限公司設立(中国缶詰生産・販売)
- 9月
 - ⇒ 神港魚類完全子会社化
 - ⇒ 日新タンカー、マルハストラシステムズを売却

5. 2006年度のトピックスー2

- 11月 → キングフィッシャー社(タイ)新冷凍食品工場本格的稼働開始
- 12月 → ニチロと経営統合基本合意
→ 北米水産物販売会社Premier Pacific Seafoods社買収
- 2月 → 大阪魚市場との近畿地区荷受事業の統合を凍結
- 3月 → 株主優待制度新設
→ エフリペル社(アフリカ合弁エビ事業)売却
→ 大連遠洋マルハ食品有限公司(中国缶詰生産・販売)本格的稼働開始
→ クロマグロ完全養殖事業化に向けた研究再開

6. Premier Pacific Seafoods社買収



すりみ加工母船 “Ocean Phoenix号”

Premier Pacific Seafoods社が事業管理、販売を受託

すりみ	10,000 トン
冷凍助宗製品	9,000 トン
助子(たらこ)	800 トン
魚粉・魚油	4,000 トン

7. 海外調達・生産能力

マルハグループ

ニチログループ

漁業・養殖

大洋エーアンドエフ (国内外漁業)
 (国内養殖)
 マルハ増養殖事業部 (国内養殖)
 マダガスカル水産等 (海外エビ漁業)
 ビアンカ (海外マグロ畜養)

Alfa Kurunia Fish (海外エビ漁業)
 Patagonia Salmon (チリ鮭養殖)

北米

Westward Seafoods , Inc.
 Alyeska Seafoods , Inc.
 Supreme Alaska Seafoods , Inc.
 Trans Ocean Products , Inc.
 Premier Pacific Seafoods、Inc
 他
 合計5工場 加工母船2隻

Peter Pan Seafoods , Inc.
 Golden Alaska Seafoods , Inc.
 他
 合計4工場 加工母船2隻

8. クロマグロ人工孵化研究



2010年完全養殖達成へ

世界で2例目



2006年孵化稚魚
現在2.5KGにまで成長



9. 大連遠洋マルハ食品缶詰工場本格稼働



中国国内向け
製品生産・販売

常温流通品
缶詰(鯖・ニシン等)
レトルト(カレー等)



10. キングフィッシャー社新冷凍食品工場本格稼働

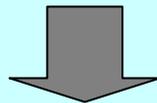


処理能力 原魚ベース 9,000トン

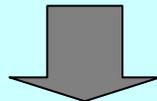
日本向...えびフライ、えびてんぷら、イカ・甘エビ刺身、パン生地製品等
欧米向...えびから揚げ、イカ加工品、魚切身、寿司だね等

11. 2007年度事業環境予想

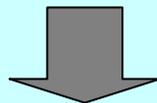
畜肉類の安全性不安
欧米諸国健康志向・シーフードブーム
中国・インド・東欧経済発展(可処分所得増加)



世界的な水産物需要の増加継続



世界的魚価高は継続予想＋為替円安



日本の食品価格は徐々に上昇

12. 計画未達成事業の次年度への対応策

• アフリカ合併エビ事業

⇒ モザンビーク合併事業売却

• 北米事業

⇒ Aシーズン(漁期)は順調 効率操業
PPS社買収(扱い数量増)

• 水産商事

⇒ 相場回復 利益率回復

• 冷凍食品

⇒ アイテムの絞り込み 利益体質確保

• アジア・オセアニア

⇒ 鮪鰹缶詰製品価格修正 収支改善
大連缶詰工場本格稼働
KF社新冷凍食品工場本格稼働

• 新規事業(M&A)

⇒ 継続的に推進

13. 2007年度営業利益増益要因(前年比)

水産セグメント

- 海外エビ合弁事業収支改善
- 北米事業漁業環境改善
- 水産商事収支改善
- その他(価格上昇による利益率改善等)

食品セグメント

- 冷凍食品事業収支改善
- アジア加工事業収支改善(新工場、ツナ缶値上げ等)
- その他

保管・物流セグメント
 新規事業(M&A)
 全社

25 億円
 10 億円
 8 億円
 4 億円
 3 億円

9 億円
 4 億円
 4 億円
 1 億円

2 億円
 18 億円
 △15 億円

総 計 39 億円

14. 2007年度計画－営業利益

単位：億円

セグメント	2007年度の 営業利益計画
水産セグメント	102
食品セグメント	61
保管物流セグメント	17
その他(含新規事業)	26
全社	▲47
合計	160

* 億円単位で四捨五入のため、合計不一致

15. 2007年度計画－経営指標

(連結ベース)

	2007年度 (計画)
売上高	7,500 億円
営業利益	160 億円
経常利益	140 億円
当期利益	50 億円
ROA	4.3 %
D/Eレシオ	4.6 倍
有利子負債額	2,400 億円

16. ニチロとの経営統合（株式交換）

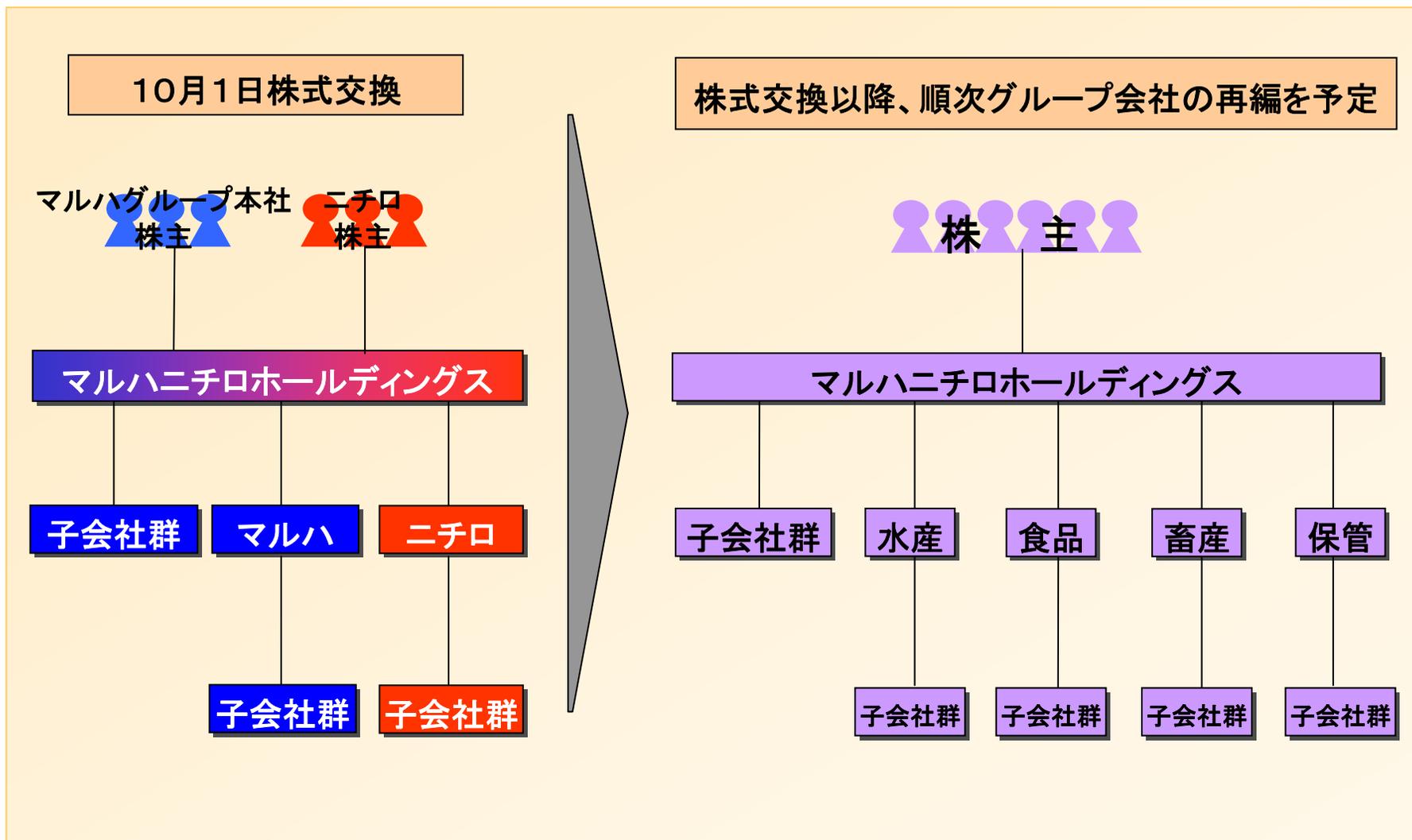
普通株式

・ 株式交換比率	マルハG本社：ニチロ = 1 : 0.905		
・ 株式交換日	2007年10月1日		
・ 新会社株式数	マルハG本社既存株	359,709,205株	} 508,574,884株
	新規交付	148,865,679株	

優先株式

・ 株式交換比率	マルハG本社：ニチロ = 1 : 1		
・ 株式交換日	2007年10月1日		
・ 新会社株式数	マルハG本社 発行済第一種優先株	7,030,000株	
	新規交付第二種優先株	4,000,000株	

17. ニチロとの経営統合（事業再編）



18. ニチロとの統合(参考)

(連結ベース)

	マルハグループ 2006年度(実績)	ニチログループ 2006年度(予想)	合計
売上高	7,375 億円	2,520 億円	9,895 億円
営業利益	121 億円	43 億円	164 億円
経常利益	111 億円	29 億円	140 億円
当期利益	16 億円	45 億円	61 億円

19. 統合に関わる2007年度の予定

07年 4月

⇒ 株式交換比率開示

6月

⇒ 株主総会

10月

⇒ ニチロと経営統合
(統合後の通年計画開示)

11月

⇒ 中間決算開示
機関投資家向け説明会

08年1月以降

⇒ 新体制における計画発表